

大学共同研究「島、港町を介した文化的・社会的移動・交流とネットワーク構築に関する研究」
「島国、港町と海洋文化研究センター」
研究会

20240627

岩野祐介

橘新資料と無教会主義キリスト教の瀬戸内ネットワーク

橘 新（たちばな はじめ）資料とことからの経緯
経緯

2021年夏、橘のお孫さんにあたる小早川直子氏より、関西学院大学に蔵書・資料提供のお申し出があった。同志社大学に打診したところスペースがないと断られ、無教会主義キリスト教関連の資料だから、ということで同志社大学神学部小原克博教授が岩野の名前を挙げられた、とのこと。

→とりあえず、岩野のもとにお送りいただいた。

神学部校舎の端末室に運び込みリスト化したところ、蔵書・雑誌類（大量。矢内原以外の無教会関連雑誌も多数。キリスト教・神学関連書も多数あり、戦前～戦後期日本地方都市知識人キリスト者の背景を知ることができる点でも興味深いものであった）以外に、矢内原忠雄（1893-1961）とやりとりした手紙がそこに含まれていることが判明。扱いを赤江先生にもご相談する中で、橘新はその書簡が矢内原忠雄全集に収録されている重要人物であることが明らかになる。詳しくは『矢内原忠雄の橘新宛書簡——無教会伝道者から地方の信徒への手紙——』171-172を参照。

→矢内原関連書簡について翻刻し、天理大学文学部歴史文化学科の黒岩康博先生にチェックしていただき、赤江先生を通じて資料紹介として関西学院大学社会学部紀要に掲載。

橘 新（1902-1973）

無教会主義キリスト教の伝道者、矢内原忠雄の弟子（矢内原の雑誌読者であり、時に集会にも参加）
詳しくは『矢内原忠雄の橘新宛書簡』168-169を参照。

以下、小早川直子氏より赤江先生、cc 岩野宛のメールから引用

「お問い合わせの件ですが、祖父 橘新（はじめ）の生年月日は 明治 35 年(1902)5 月 13 日 愛媛県松山市南京町生まれ、没年月日は 昭和 48 年 11 月 11 日 愛媛県新居浜市にて 昇天いたしました。現在は松山市鷺谷墓地に眠っております。（墓碑銘には 橘新 此処に眠らず ですが）

（中略）

祖父の新居浜での教会活動(特に住友関係および新居浜梅香教会)での写真は、日本基督教団新居浜梅香教会に寄贈 黒崎幸吉さん関係を中心としたものは、登戸学寮の千葉恵先生に寄贈いたしました。

（中略）

…また新居浜の家を解体する際に出てきた橘および吉村（橘新は吉村孝一の次男ですが、吉村孝一の父（橘友三郎）の長男（忠太郎）の養子となったためタチバナ性になった）の遺品などの教会関係で

はないものを愛媛県立博物館に追加寄贈する予定です。(226事件の時の陸軍大臣 川島義之は橋新の従兄にあたり、大変かわいがってもらったようで多くの手紙類があります)(川島義之の母が橋新の母の姉)

吉村と橋はもともと松山藩で侍講のお役目を頂いていたそうで、家も喜与町 26 番地で隣り合っており、かなり昔から養子縁組をして家をつないできました。坂の上の雲の秋山大将兄弟と吉村孝一は近所の幼馴染で晩年まで交流があった記録があります。

吉村孝一は橋から吉村へ婿養子にきましたが、夫婦仲悪く、従事していた警察官の仕事をやめて1905 年ころから7-8年単身でアメリカサンフランシスコ近くのリバーサイドでクリーニング屋をして暮らしていたそうです。その時の聖書などがでてきており、祖父新がいきなりキリスト教に転身したのではなかったのだと思います。祖父から孝一への手紙にも聖句が混じっていました。

ちなみに祖父新は病気がちであったため、徴兵されておらず、現在の広島大学(広島工業専門学校)から通産省の化学部門研究で大阪におり(豊中在住)ましたが住友機械にてヘッドハンティングされ新居浜へ行ったとのことで、そこで矢内原忠雄らと出会ったと聞いております。

(後略)」

現時点で報告できること、興味深いこと

橋とのやり取りから、矢内原の活動の様子について、細部を垣間見ることができる。たとえば藤本正高と矢内原の関係など、従来の研究でさほど意識されてこなかった部分を知ることができる資料となるのではないかと。なお矢内原の関連資料は今井館教友会などに未整理のまま大量に保管されており、今後の資料整理が必要である。

橋は矢内原の雑誌以外にも、黒崎幸吉、塚本虎二といった無教会主義キリスト教指導者の雑誌を購読している。夏期に保養地などで行われた大規模な集会には、地方都市の読者も実際に参加していたようである。すなわち、無教会主義キリスト教の広がりには、特定の集会内での指導者から特定の弟子へ、という単線的・放射状のものではなく、ある無教会キリスト者が複数の指導者の雑誌を購読する、ネットワーク的なものであることを示しているのである。また橋は、書物の取次のようなこともしている。花巻時代の斎藤宗次郎のように、直接文書伝道・聖書講義をおこなうのではない形で無教会ネットワークに関わる者の実例として興味深い。

橋は矢内原や黒崎とともに瀬戸内のハンセン病療養所を訪問している。無教会主義キリスト教とハンセン病療養所とのつながりが誰によってどのように生じたかについてははっきりとしたことは言えないが、橋は積極的に矢内原や黒崎の訪問を求めている。

今後のテーマとして

橋自身の伝記的事実を解明し記録すること(小早川直子氏への取材等)。

他の、新居浜でのキリスト教活動に関する調査。教派教会(新居浜梅香教会)との連携、また海を挟んだ神戸・須磨・明石、広島、大分などとの連携があるのかどうか。企業としての住友内でのキリスト者の活動がいかなるものであったか。

ハンセン病療養所との関係。

無教会キリスト教の瀬戸内ネットワーク
——結節点としての住友・集会・療養所——

赤江達也

主催：島国、港町と海洋文化研究センター（関西学院大学 特定プロジェクト研究センター、2024-2026年度）
大学共同研究「島、港町を介した文化的・社会的移動・交流とネットワーク構築に関する研究」（関西学院大学 2024年度 大学共同研究（公募研究A））

赤江達也・岩野祐介・黒岩康博「〈史料紹介〉 矢内原忠雄の橋新宛書簡——無教会伝道者から地方の信徒への手紙」『関西学院大学社会学部紀要』第142号、2024年3月、167-186頁 <https://kwansei.repo.nii.ac.jp/records/2000468>

1 無教会キリスト教における書簡研究の意義

無教会：1900（明治33）年頃、内村鑑三（1861-1930）が開始した宗教思想運動

南原繁、矢内原忠雄、大塚久雄ら著名な知識人を輩出。1950年代には3-5万人
無教会主義：既存の教会（教派教団）から距離をとる独立志向のプロテスタンティズム
19世紀以降における「教会外のキリスト教」のひとつ

無教会運動：雑誌と集会の二層構造——内村鑑三が語った「紙上の教会」（赤江2013）
雑誌『聖書之研究』（1900-1930）、聖書研究会、国内外各地の集会（教友会）

内村鑑三の雑誌発行部数、集会参加者数の推移（1900-1930年）

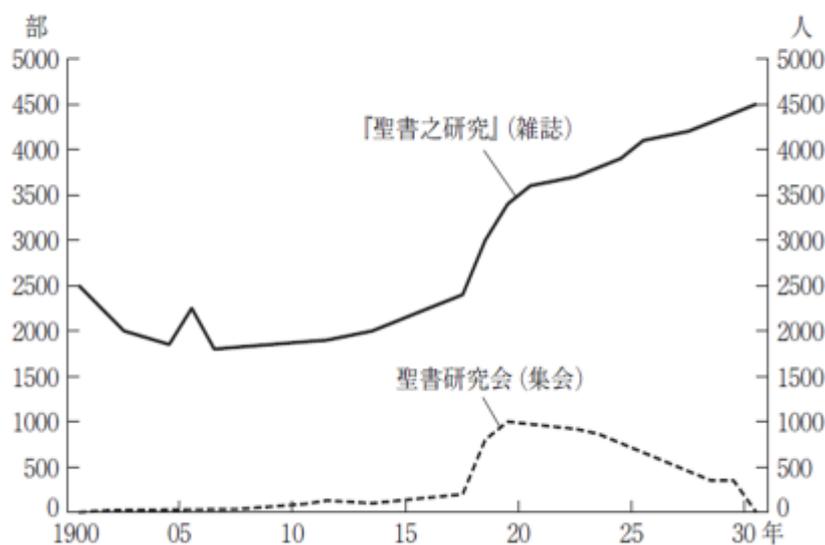


図1 内村鑑三の雑誌発行部数、集会参加者数の推移（赤江2013）

無教会雑誌数の推移（当該年内に刊行された雑誌数 1905-1970年）

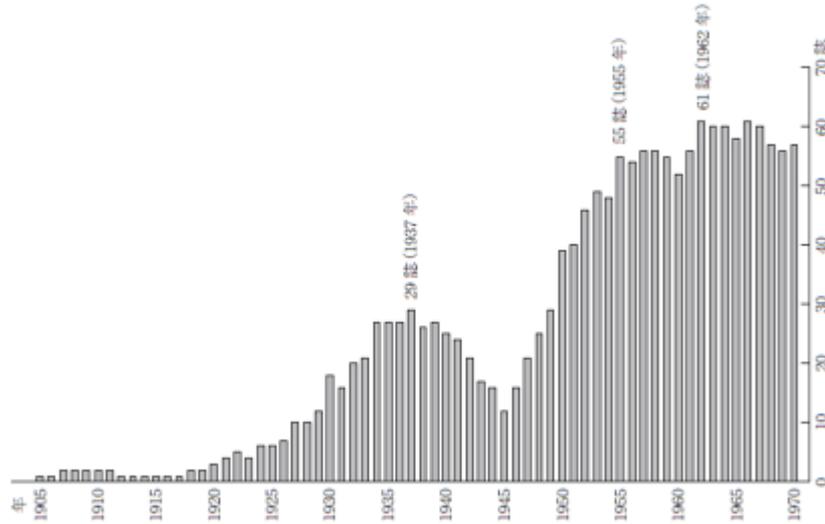


図2 無教会雑誌数の推移（1905-1970年）（赤江2013）

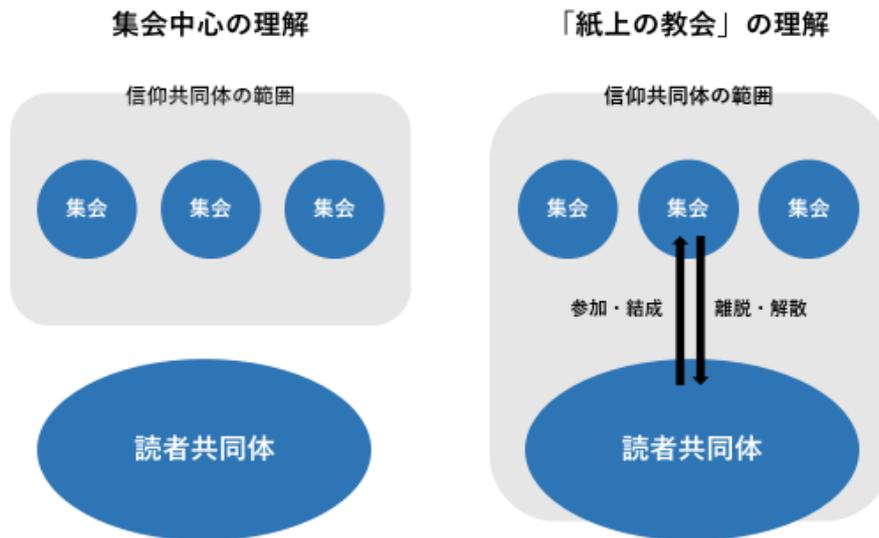


図3 集会中心の無教会理解（左側）、「紙上の教会」としての無教会の理解（右側）

無教会運動の捉え方

- ①集会こそが無教会の教会である（対面的な交わり、師弟関係）
- ②読者共同体から生成する集会群（「紙上の教会」、雑誌と集会の連動、読書関係）
- ③**伝道者と信徒の書簡（遠隔的な師弟関係、雑誌購読＋書簡での交流・指導）**
→雑誌と書簡によるネットワーク型の宗教思想運動

2 矢内原忠雄——無教会第二世代の伝道者・知識人

無教会第二世代：ほぼ一高・帝大生、柏会・白雨会などを結成、10 数名が無教会伝道者に
黒崎、江原、矢内原は住友に就職。矢内原・江原は帝大教員の伝道者に

表 1 主な無教会伝道者・知識人 (赤江 2024)

		生年		没年		信仰上の師
	内村鑑三	1861	万延2	1930	昭和5	
第二世代	畔上賢造	1884	明治17	1938	昭和13	内村
	塚本虎二	1885	明治18	1973	昭和48	内村
	黒崎幸吉	1886	明治19	1970	昭和45	内村
	藤井 武	1888	明治21	1930	昭和5	内村
	南原 繁	1889	明治22	1974	昭和49	内村
	三谷隆正	1889	明治22	1944	昭和19	内村
	江原萬里	1890	明治23	1933	昭和8	内村
	金澤常雄	1892	明治25	1958	昭和33	内村
	矢内原忠雄	1893	明治26	1961	昭和36	内村
第二・五世代	石原兵永	1895	明治28	1984	昭和59	内村
	伊藤祐之	1896	明治29	1969	昭和44	内村
	鈴木弼美	1899	明治32	1990	平成2	内村
	山本泰次郎	1900	明治33	1979	昭和54	内村
	政池 仁	1900	明治33	1985	昭和60	内村
	鈴木俊郎	1901	明治34	1982	昭和57	内村
	藤澤武義	1904	明治37	1986	昭和61	内村
	大塚久雄	1907	明治40	1996	平成8	内村
第三世代	関根正雄	1912	大正元	2000	平成12	内村・塚本
	藤田若雄	1912	大正元	1977	昭和52	矢内原
	前田護郎	1915	大正4	1980	昭和55	塚本
	中沢洽樹	1915	大正4	1997	平成9	塚本
	西村秀夫	1918	大正7	2005	平成17	矢内原
	高橋三郎	1920	大正9	2010	平成22	矢内原
	富田和久	1920	大正9	1991	平成3	矢内原

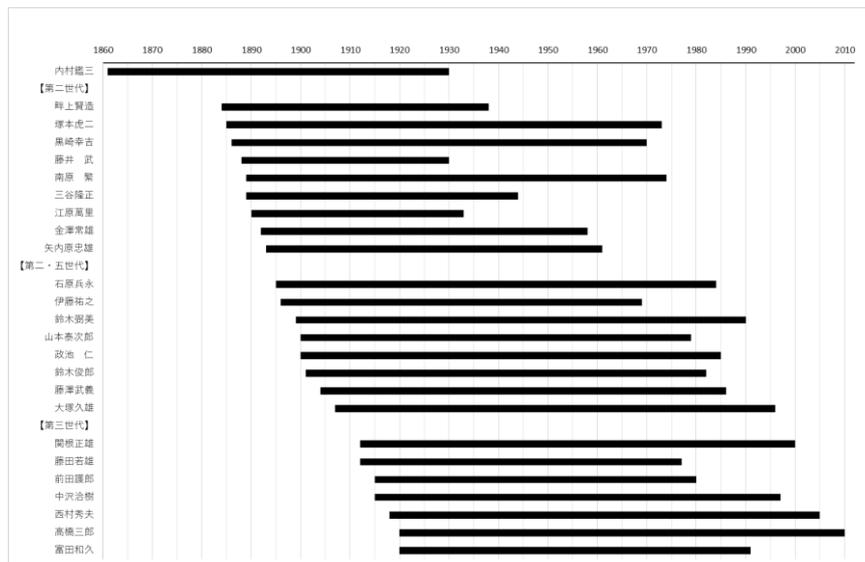


図 4 無教会伝道者・知識人 生没年表 (赤江 2024)

表 2 矢内原忠雄略年譜 (赤江 2017)

西暦	和暦	満年齢	事項
1893	明治26	0	1月27日、愛媛県に生まれる。
1919	明治43	17	第一高等学校入学。新渡戸稲造校長に師事。
1911	明治44	18	内村鑑三の聖書研究会に入門。
1913	大正2	20	第一高等学校卒業。東京帝国大学法科大学政治学科入学。
1917	大正6	24	東京帝国大学卒業。
1920	大正9	27	住友別子鉱業所(愛媛県新居浜)に就職。西永愛子と結婚。 東京帝国大学経済学部の助教授となる(植民政策講座を担当)。 欧米留学(イギリス、ドイツ、フランス、アメリカ)。
1921	大正10	28	『基督者の信仰』刊行。
1923	大正12	29	帰国。妻愛子死去。教授となる。
1924	大正13	31	堀恵子と再婚。
1925	大正14	32	帝大聖書研究会をはじめめる。
1926	大正15	33	『植民及植民政策』刊行。
1927	昭和2	34	『植民政策の新基調』刊行。
1929	昭和4	36	『帝国主義下の台湾』刊行。家庭集会をはじめめる。
1930	昭和5	37	内村鑑三死去。講演「内村先生対社会主義」。藤井武死去。
1932	昭和7	39	『マルクス主義と基督教』刊行。 満州旅行中に列車襲撃に遭う。個人誌『通信』創刊(～1937)。
1933	昭和8	40	論説「日本精神の懐古的と前進的」。講演「悲哀の人」。 自由ヶ丘集会(日曜家庭集会)を本格的にはじめめる。
1934	昭和9	41	『満洲問題』刊行。
1935	昭和10	42	『南洋群島の研究』刊行。
1936	昭和11	43	『民族と平和』刊行。二・二六事件に衝撃を受ける。
1937	昭和12	44	日中戦争はじまる。論説「国家の理想」。講演「神の国」。 東京帝国大学を辞職(矢内原事件)。
1938	昭和13	45	個人雑誌『嘉信』創刊(～1961)。 クリスティ『奉天三十年』翻訳。
1940	昭和15	47	『余の尊敬する人物』刊行。朝鮮講演旅行。
1941	昭和16	48	講演「基督教と日本」。太平洋戦争はじまる。
1945	昭和20	52	終戦。終戦講演「日本精神への反省」「平和国家論」。 東京帝国大学教授となる。
1946	昭和21	53	天皇の人間宣言。今井館聖書講堂で日曜聖書講義をはじめめる。 国際経済論を開講する。帝大聖書研究会を再開する。
1947	昭和22	54	『日本の傷を医す者』刊行。東京大学に改称。
1948	昭和23	55	経済学部長となる。『イエス伝』刊行。
1949	昭和24	56	教養学部長となる。天皇への進講。
1950	昭和25	57	『講話問題と平和問題』刊行。
1951	昭和26	58	東京大学総長となる。
1952	昭和27	59	東大ポロ事件。
1955	昭和30	62	東京大学総長に再選される。
1957	昭和32	64	東京大学総長を任期満了で辞する。
1958	昭和33	65	学生問題研究所所長となる。
1960	昭和35	67	発病。
1961	昭和36	68	死去。『嘉信』終刊。

3 矢内原忠雄と橘新の交流——住友人脈、信仰的な交流・指導・慰問

矢内原忠雄の橘新 [たちばなはじめ] 宛書簡：1935-1959年の24年間、24通を紹介

意義 (1) 無教会運動における書簡の役割。雑誌と書簡。遠隔的な師弟関係。

(2) 地方の無教会信徒の活動。雑誌等の共同購入。講演旅行。ハンセン病療養所。

(3) 矢内原事件 (1937) で、矢内原を支援した信徒の活動。

表3 橘新略年譜 (赤江・岩野・黒岩 2024 等をもとに作成)

西暦	和暦	月日	満年齢	事項
1893	明治26			矢内原忠雄、愛媛県今治で生まれる
1902	明治35	5月13日	0	愛媛県松山市南京町で生まれる
1910	明治43		8	伊東せき氏 (後の橘新夫人) 生まれる
1917	大正6			矢内原、東京帝国大学卒業、住友に就職し別子鉱業所に勤務、新居浜で伝道
1920	大正9			矢内原、東京帝国大学経済学部に着任
1920頃か			18?	広島工業専門学校 (現在の広島大学) で学ぶ
1920年代半ば				通産省の化学部門研究 (大阪・豊中在住) 1920年代後半に結婚か
1928	昭和3			(住友別子鉱山株式会社 (現・住友金属鉱山株式会社) 新居浜製作所に改称)
1930	昭和5		28/29	長女・橘孝子氏、豊中で生まれる
1930-31頃				住友別子鉱山株式会社新居浜製作所 (のちの住友機械) に転職、新居浜に転居
1932	昭和7	4月	30	長男・橘磐氏、新居浜で生まれる
1933-34頃				矢内原忠雄や黒崎幸吉の講演をきき、傾倒する (住友機械なら1934年だが?)
1934	昭和9	11月1日	33	住友機械製作株式会社設立 (これにより新居浜製作所が住友機械となる)
1935	昭和10	3月12日	33	矢内原から橘新氏への手紙 (返信)、橘の上京 (3月末) 史料1
1935	昭和10	7-8月	33	橘、山中湖での講習会に参加 史料2
1935	昭和10	9月	34	矢内原と大島訪問 (1回目、9/8頃) 矢内原、新居浜の兄に関するお礼 史料2
1935	昭和10	9月29日	34	矢内原、新居浜訪問と写真のお礼、大島の長田穂波の手紙借用について 史料3
1935	昭和10	12月	34	矢内原、大島の長田穂波への言及 史料4
1936	昭和11	8月	35	新居浜と山中湖での早天祈祷、矢内原『民族と平和』刊行のこと 史料5
1936	昭和11	5月	35	大島の長田穂波に書物・菓子を送る (史料紹介の解題170頁)
1936	昭和11	10月	35	大阪で矢内原の講演をきく 史料7
1936	昭和11		35	黒崎幸吉を大島に招く (開催は何時か) 史料6
1936	昭和11	11月5日	35	矢内原、黒崎の大島訪問に言及、他の伝道者への言及 史料8
1937	昭和12	7月4日	36	矢内原、「橘和尚」という評言、夏に新居浜訪問? 史料9
1937	昭和12	8月	36	矢内原と大島訪問 (2回目) (史料紹介の解題・写真170-171頁【訂正】9月→8月)
1937	昭和12	10月	35	上京して矢内原の「神の国」講演をきく 献辞 (史料紹介の解題・図171頁)
1937	昭和12	12月	35	矢内原、東京帝国大学を辞職 (矢内原事件)
1938	昭和13	9月		矢内原編『藤井武全集』の購入・配本等 史料10、11
1941	昭和16	3月	38	矢内原、岡山の長島 (ハンセン病療養所) への言及 史料12
1941	昭和16	7月	39	矢内原「奥様御子様御病臥中…困難山積の中…信仰に立つておられ」 史料13 矢内原、個人雑誌『嘉信』の愛生園 (岡山)、敬愛園 (鹿児島) への寄贈 史料13
1942	昭和17	12月	40	講演会出席のため上京 史料14、15
1943	昭和18		41	矢内原と大島訪問 (3回目?)、矢内原の新居浜訪問 史料16
1943	昭和18	10月26日	41	大島の長田嘉吉 (穂波) から橘新宛ハガキ 史料27
1944	昭和19	1月28日	41	夫人・橘せき氏、死去 史料16
1944	昭和19	11月1日	42	村上喜一編『飛燕草』に寄稿 (橘新「感ずるままに」) 史料16
1945	昭和20	6月、9月	43	紙不足のなかで原稿用紙や封筒の返送 史料17、18
1952	昭和27	9月	50	矢内原 (東大総長)、愛媛県での講演会 史料19、20、21
1953	昭和28	4月13日	50	矢内原「十字架にしがみついで離れないことです」 史料22
1955	昭和30	7月9日	53	矢内原「御家庭の問題や御仕事のことなどで困難の中を通つて居られる」 史料23
1959	昭和34	12月26日	57	矢内原からの最後のハガキ 史料24
1961	昭和36	12月25日	59	矢内原忠雄、死去
1965	昭和40	2月、7月	62/63	矢内原忠雄全集への書簡採録について矢内原恵子夫人と連絡 史料25、26
1968	昭和43	3月24日	66	無教会伝道者・富田和久の橘新宛封書 史料28
1973	昭和48	11月11日	71	愛媛県新居浜市で死去 松山市鶯谷墓地に眠る (墓碑銘「橘新 此処に眠らず」)

4 無教会キリスト教の瀬戸内ネットワーク——結節点としての住友・集会・療養所

居住地 (出身地・勤務地)

- ・黒崎幸吉 山形の鶴岡、東京 (高大)、**阪神間・新居浜**・東京・米国 (住友)、**岡本**
- ・江原萬里 岡山の**津山**、東京 (高大)、**芦屋**・新居浜 (住友)、東京 (帝大)、鎌倉
- ・矢内原忠雄 愛媛の**今治**、**神戸** (中)、東京 (高大)、**新居浜** (住友)、東京 (帝大)
- ・橘新 愛媛の**松山**、**広島** (専)、大阪の**豊中** (通産省)、**新居浜** (住友)

住友 (1875 住友本店、1909 住友総本店、1921 住友合資会社、1937 住友本社)

- ・**別子銅山** (愛媛県新居浜市。1691 開坑、1973 閉山。283 年間、住友家が経営)
- ・**新居浜** (住友の会社・社宅)
- ・**大阪総本店、阪神間 (住友家)**
- ・1910 年代、東京帝大から採用、黒崎・江原・矢内原ら就職。エリート採用、財閥化。
- ・**四阪島** (銅精錬所。1905 本格操業開始。煙害、抗議。矢内原、1917 入社面接時の話)

無教会の集会 (加島二郎 2002 『関西無教会小史』 関西無教会小史刊行会)

- ・矢内原忠雄の**愛媛・新居浜集会** (1917-)
- ・江原萬里の**芦屋会** (1918-) 関西で最初の無教会集会 黒崎の妹・祝と結婚後に開始
- ・黒崎幸吉の**大阪・中之島集会** (1931-) 住居は**岡本** (神戸市東灘区本山町) 登戸学寮
- ・三谷隆正、岡山・第六高等学校 (1915-1926)、東京・第一高等学校 (1926-1942)
- ・森本慶三、岡山・津山基督教図書館 (1926-)、津山基督教図書館高等学校 (1950-)
- ・**内田正規、岡山の結核療養者、無教会の信徒・伝道者** 史料 12
- ・他教派の教会・集会：松山、今治などの教会、キリスト同信会 (大阪・阪神間)

ハンセン病療養所 (下記のほか、鹿児島敬愛園、沖縄愛楽園、多磨全生園など)

- ・高松の**大島青松園** 三宅清泉、長田穂波らの**霊交会、『霊光』** (1919-1940) (阿部安成)
- ・岡山の**長島愛生園** 光田健輔園長 **内田正規が「時々話に行く」** 史料 12



図5 瀬戸内圏地図